

本コンクールは、みんなのよい食プロジェクトの一環として
取り組んでいる事業です。過去の受賞作品は、JAグループHP
(<https://life.ja-group.jp/>)からご覧いただけます。



ごはんのお米とわたし

作文・図画コンクール

課題

(作文・図画両部門共通)

毎日のごはんでおいしかったことや
家族とのコミュニケーション、
お米・ごはん食に関する思い出や
考えたことなどを素直な気持ちで
自由に表現して下さい。

第46回

作品募集中!

美味ちゃん

©みんなのよい食プロジェクト

しめきり日 令和3年10月8日(金) 必着

応募・
問い合わせ先

沖縄県農業協同組合中央会 農政営農部またはもよりのJAへ
沖縄県農業協同組合中央会 連絡先 TEL.098-831-5110

応募資格

小学校および中学校に在籍する児童・生徒。特別支援学校の小学部・中学部に在籍する児童・生徒。

応募規格

(枚数・大きさ)

【作文部門】

- 1部 小学校1年生～3年生 (400字詰め原稿用紙2枚以内、またはマス目の大きい原稿用紙で800字以内)
- 2部 小学校4年生～6年生 (400字詰め原稿用紙3枚以内)
- 3部 中学校1年生～3年生 (400字詰め原稿用紙4枚以内)

【図画部門】

- 1部 小学校1年生～3年生 (B3判、もしくは四つ切りの市販画用紙を使用。画材は特に制限しません。)
- 2部 小学校4年生～6年生
- 3部 中学校1年生～3年生

賞

内閣総理大臣賞	作文・図画部門各1名	計2名
文部科学大臣賞	各部門各部門ごとに1名	計6名
農林水産大臣賞	各部門各部門ごとに1名	計6名
全国農業協同組合中央会会長賞	各部門各部門ごとに1名	計6名
優秀賞	各部門各部門ごとに15名	計90名
学校奨励賞	内閣総理大臣・文部科学大臣・農林水産大臣各賞受賞者所属校	計14校

*各部門には審査基準がありますので、詳細については上記お問い合わせ先までご連絡下さい。

主催：農業協同組合／都道府県農業協同組合中央会／全国農業協同組合中央会

後援：内閣府／文部科学省／農林水産省／全国都道府県教育委員会連合会／全国市町村教育委員会連合会／日本放送協会(NHK)／全国連合小学校長会／全日本中学校長会／(公社)全国学校図書館協議会／(公社)日本PTA全国協議会／(公社)米穀安定供給確保支援機構

協賛：全国農業協同組合連合会／全国共済農業協同組合連合会／農林中央金庫／全国厚生農業協同組合連合会／(株)日本農業新聞／(一社)家の光協会／(一社)全国農協観光協会

耕そう、大地と地域の未来。 JAグループ

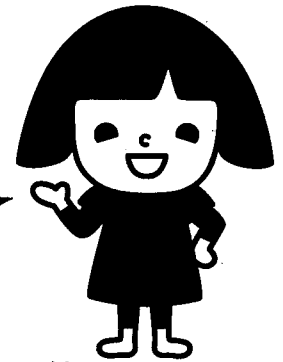
JAグループのウェブサイトでは、皆さんのお近くにあるJAファーマーズマーケットや国産野菜や果物の魅力をご紹介します。ぜひご活用下さい!





「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール

JAグループがすすめる「みんなのよい食プロジェクト」の一環として、これからの食・農を担う次世代の子どもたちに、お米・ごはん食、稲作など、日本の食卓と国土を豊かに作りあげてきた稲作農業全般についての学びを深めてもらうとともに、子どもたちの優れた作品を顕彰することをつうじて、稲作農業の多面的機能と、お米・ごはん食の重要性を広く周知するために開催しています。



笑味ちゃん みんなのよい食プロジェクト

＜過去の受賞作品＞ JAグループHP(<https://life.ja-group.jp/education/contest/>)でもご覧いただけます。

※学年は受賞当時のものです。

図画部門

第42回内閣総理大臣賞



「めっちゃおいしいね!」

三重県鈴鹿市立白子中学校3年
加藤 ひろなさん

第43回内閣総理大臣賞



「お米を作る人達」

鳥根県松江市立乃木小学校5年
石松 祐さん

第44回内閣総理大臣賞



「おむすびは勉強のおとも」

静岡県長泉町立北中学校3年
清和 羽音さん

作文部門

第44回内閣総理大臣賞

「広がり!お米の可能性」
香川県高松市立栗林小学校6年
長町 そよかさん

たきたての白いごはんは魚の煮物、そして、野菜のいためものと貝の汁物。このこんだてから多くの人が想像するのは日本のごはんではないだろうか。しかしこれは、私がベトナムで食べたごはんだ。

私は四月の終わりに家族でベトナム旅行に行った。ベトナムの人は、フオーや生春巻ばかり食べているイメージがあったのでおどろいた。もちろんフオーや生春巻も食べていたが、晚ごはんは白いごはん、ごはんがすすむおかずを組み合わせて食べるそう。そして、少し田舎に行くと、見渡す限り田んぼが広がっていて、農家の人が水牛と一緒に稲刈りをしていて、おどろいたのは、家の前から道路にまではみ出して、大量の米を干していたことだ。ベトナムでは、日本のように脱穀をする前に、はさがけをしないそう。バケツで稲を育てたことのある私には、収刈後の作業のちがいが興味深かった。ベトナムは世界有数の米の輸出国で、米作りは二期作や三期作をしていることも現地で知った。また、日本語で食事をするのを「ごはんを食べる」と言うが、ベトナムも同じで「アン(食べる)コム(白いごはん)」と言う。このことから私は、ベトナムが日本と同じく米が主食の国だと知り、すごく身近に感じた。

ベトナムでいろいろな米料理を食べて帰ってきた私は、ベトナムの米料理についていろいろ調べてみた。分かったことは、ベトナムでは、米を粉にして加工するものが多いということだ。フオーや生春巻もこうして作られている。それに対して日本は、粒のまま食べている。これは、お米の種類や食文化のちがいがあからだと思ふ。日本では年々、米の消費量が減り、米農家や田んぼもどんどん減っている。けれどベトナムでは、めんやライスバー、おこわやおかゆなど、日常的にお米をたくさん食べている。私は、ベトナムの米の消費量が日本のように減らないのは、食べ方がたくさんあるからではないかと考えた。今までお米のことを日本国内からしか見ていなかったけれど、初めて世界から見る経験をした。一番感じたのは、お米が持つ力、パワーのすごさだ。お米はどんな形にもどんな料理にも姿を変えることができ、赤ちゃんからお年寄りまで食べることでできる健康食だ。こんな食べ物には他にないと思う。日本は米作りに適した気候で、昔から米を作ってきた文化がある。おいしいお米を作る技術もある。だからこそ私は、もっともっとお米の可能性を広げたいと思った。日本でも米粉パンなど、今までもなかなか増えているけれど、もっと、みんなが思いつかないような、おもしろくておいしい米料理を考えてみたい。形や食べ方、他の食材との組み合わせなど、お米には大きな可能性があると思う。私はこのことを、日本だけでなく、世界にも発信していきたいなと思う。

応募総数

第44回「ごはん・お米とわたし」
作文・図画コンクール

作文部門:50,660点 図画部門:60,767点

第46回「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール 全国審査会/表彰式日程

【全国審査会】 作文審査会:2021年11月19日(金)
図画審査会:2021年11月16日(火) 会場:JAビル(東京・大手町)
【表彰式】 2022年1月8日(土) 会場:JA共済ビル カンファレンスホール

